

概 況

1. 畜種別取扱高

令和6年中の東京都中央卸売市場食肉市場（以下「東京市場」という。）における畜産物の取扱状況は、頭数約36万頭、重量約8万6千トン、金額約1,473億円となり、前年と比べ頭数で約4.0%増、重量で約3.4%増、金額で約6.1%の増加であった。

畜種別に見ると、牛は頭数約14万頭、重量約6万7千トン、金額約1,355億円となり、前年と比べ頭数で約2.0%増、重量で約2.4%増、金額で約5.5%の増加であった。

豚は頭数約22万3千頭、重量約1万9千トン、金額約117億2千万円となり、前年と比べ頭数で約5.3%増、重量で約6.9%増、金額で約12.6%の増加であった。

2. 産地別取扱高

牛については、45都道府県から入荷があった。東京市場における入荷量の順位を重量で見ると、1位千葉県、2位北海道、3位栃木県、4位茨城県、5位岩手県、6位宮城県、7位福島県となっており、この7道県で東京市場の約68%を占めた。

豚については主に関東、東北の26都道県から入荷があった。東京市場における入荷量の順位を重量で見ると、1位群馬県、2位岩手県、3位茨城県、4位栃木県、5位千葉県となっており、この5県で東京市場の約70%を占めた。

3. 年間市況

令和6年の日本経済は、暦年の実質GDPが前年比0.1%とプラス成長となったものの、内訳を見ると民間最終消費支出は前年比マイナス0.1%となっており、家計の消費は伸び悩む結果となった。その背景としては、食料品やエネルギーを中心に物価の上昇が継続している一方で、賃金の上昇が物価の上昇に追いついていないため、消費者の節約志向が続いている状況がある。

牛の全国と畜頭数(成牛)は約111万頭(対前年比約1.0%増)であり、このうち東京市場での取引頭数は約14万頭で全国取引頭数の約12.7%を占めた。東京市場における牛の年間平均価格は1kg当たり2,005円で、前年に比べ60円(3.1%)高となった。

東京市場における牛の取引は、物価の上昇による消費者の節約志向から、相対的に価格の高いA5及びA4の和牛の年間平均価格が3年連続の前年割れとなった。一方、交雑牛については、和牛や、円安等の影響で価格の上昇した輸入牛肉の代替需要等から相場が堅調となり、主要な等級で年間平均価格が前年を上回る結果となった。

豚の全国と畜頭数は約1,627万頭(対前年比約0.9%減)であり、このうち東京市場での取引頭数は約22万3千頭で全国取引頭数の約1.4%を占めた。東京市場における上物の豚生体枝肉の年間平均価格は1kg当たり650円で前年に比べて43円(7.2%)高となった。

東京市場における豚の取引は、東京市場への入荷は増えたものの、全国と畜頭数が減少

傾向となったこと等から、高値だった令和5年をさらに上回る相場展開となった。

年明けは、暖冬により豚の成育が良好で、全国と畜頭数が増加傾向となったこと等により、落ち着いた相場展開となったが、その後は、豚熱の発生や猛暑の影響により、全国と畜頭数は伸び悩み、上物の月間平均価格がほとんどの月で前年を上回るなど、高値で推移した。特に夏場の枝肉価格は豚の成育不良の影響等から高騰し、7月の上物の月間平均価格は800円を超える異例の高値となった。